

第2回 東播磨・北播磨・丹波(加古川流域圏)地域総合治水推進協議会 議 事 概 要

事項	第2回 東播磨・北播磨・丹波(加古川流域圏)地域総合治水推進協議会	出席者	(随行者・事務局除く) 31名 (内WEBによる参加7名)
日時	令和7年2月3日(月) 14:00～16:00	場所	加東市役所2階201会議室
内容	1 開会 (1) 開会挨拶 (2) 委員及び出席者紹介 2 議事 (1) 総合治水推進計画の改定について (2) 各機関の主な取組みについて (3) 神戸地方気象台からの情報提供 3 閉会		
資料	議事次第、出席者名簿、配席図 資料1-1 東播磨・北播磨・丹波(加古川流域圏)地域総合治水推進計画の改定概要 資料1-2 東播磨・北播磨・丹波(加古川流域圏)地域総合治水推進計画 本編(案) 資料1-3 東播磨・北播磨・丹波(加古川流域圏)地域総合治水推進計画 資料編(案) 資料1-4 東播磨・北播磨・丹波(加古川流域圏)地域総合治水推進計画に対する意見 資料1-5 今後10年間の取り組みに向けたスローガン 資料1-6 今後10年間のフォローアップの概要 資料1-7 東播磨・北播磨・丹波(加古川流域圏)地域総合治水推進計画 フォローアップシート(令和6年～令和15年) 資料1-8 東播磨・北播磨・丹波(加古川流域圏)地域総合治水推進計画の パンフレット(案) 資料2 各機関の主な取組み(令和6年～令和15年) 資料3 令和6年度の防災気象情報の改善について 参考資料1 東播磨・北播磨・丹波(加古川流域圏)地域総合治水推進協議会 設置要綱及び公開要領 参考資料2 第1回 東播磨・北播磨・丹波(加古川流域圏)地域総合治水推進協議会 議事概要		

1 開会

(1) 開会挨拶（成田北播磨県民局長）

(2) 委員及び出席者紹介（事務局）

2 議事

(1) 総合治水推進計画の改定について

⇒「資料1-1、1-4、1-5、1-6、1-8」の説明を行った。（事務局）

(2) 各機関の主な取組みについて

・【資料2(国)】

⇒国の取組みとして、以下の項目の説明を行った。(国)

- ・「ながす」:河川改修（高砂他地区、大門地区、滝野地区）、
気候変動を踏まえた治水計画の見直し
- ・「そなえる」:内外水統合型水害リスクマップ、加古川流域タイムライン、
マイ・タイムライン作成講座、重要水防箇所合同点検等
- ・特定都市河川の指定の検討
- ・グリーンインフラの取り組み（自然再生、かわまちづくり）

・【資料2(県)】

⇒県の取組みとして、以下の項目の説明を行った。(県)

- ① 河川対策
 - ・東条川（上流域ブロック）、加古川（中流域ブロック）、水田川（下流域ブロック）
- ②流域対策
 - ・ため池、田んぼダム、校庭貯留・雨水貯留タンク等、森林の整備及び保全
- ③減災対策
 - ・浸水想定区域図・ハザードマップ、防災リーダーの育成、マイ避難カードの普及啓発、
フェニックス共済の加入促進
- ④普及啓発
 - ・パンフレットの作成
 - ・懸垂幕の掲示、広報誌の作成、ポスターの作成
- ⑤他流域の事例
 - ・「ながす」:(二)水尾川の河川下水道対策(下水道事業と連携した整備)
 - ・「ためる」:既存ダムの治水活用(千苅ダム、名塩ダム)
 - ・「そなえる」:災害の自分事化の取組(防災学習の実施、イベントへの参画)、
バスへの車外広告掲載や公用車へのマグネットシート設置による広報

・【資料2(丹波市)】

⇒丹波市の取組みとして、以下の項目の説明を行った。(丹波市)

- ・丹波市雨水管理総合計画の概要

・【資料2(西脇市)】

⇒西脇市の取組みとして、以下の項目の説明を行った。(西脇市)

- ①水の学習会
 - ・「そなえる」:総合治水の啓発、台風に備えての取水ゲート操作、
堰板・ゲートの操作確認
- ②モデル地区(黒田庄町福地地区の取組)
 - ・「ながす」:河川整備(県)、下水道整備(市)等
 - ・「ためる」:水田貯留、ため池貯留等
 - ・「そなえる」:地元独自のタイムライン作成等
- ③台風や豪雨による水害の激甚化・頻発化にそなえる
 - ・平成30年7月豪雨での浸水被害
 - ・水の学習会の実施、タイムライン作成等
 - ・マイ・タイムライン作成講習会

- ・【資料2(小野市)】
⇒小野市の取組みとして、以下の項目の説明を行った。(小野市)
 - ・M I Z B E (ミズベ)ステーションの整備
- ・【資料2(加東市)】
⇒加東市の取組みとして、以下の項目の説明を行った。(加東市)
 - ・消防団活動支援システムの導入
- ・【資料2(加古川市)】
⇒加古川市の取組みとして、以下の項目の説明を行った。(加古川市)
 - ・加古川市におけるワンコイン浸水センサの活用状況・市内設置状況
 - ・ワンコイン浸水センサを用いた広域防災の取組
 - ・広域防災サービスの概要
 - ・加古川市におけるワンコイン浸水センサの設置効果

(3) 神戸地方気象台からの情報提供

⇒「資料3」の説明を行った。(神戸地方気象台)

3 その他、連絡事項

4 閉会

【主な意見】

2 (1) 総合治水推進計画の改定について

- 1 下水道に関する整備や維持管理についても説明があったと思うが、現在、埼玉県で古くなった下水道管が原因で道路が陥没したことを受け、各地区の古くなった下水道管を改めて調査するという内容が報道されていた。兵庫県においても同様の調査が行われているかは不明であるが、計画の本文に下水道管の調査についての一文を追加してはどうか。（加東市県民委員）

⇒下水道の点検については、現在、日量30万トンの処理能力を持つ直径2メートル以上の下水道管について、国から緊急点検するように通知が来ているが、加古川流域圏内には緊急点検に該当する下水管はない。なお、県では、概ね5年に一度、管渠の点検を行っており、5段階の健全度評価のうち、最も危険な健全度1に該当する管渠は、加東土木にも加古川土木にもない状況であり、急な問題が発生することはないと考えている。また、今後危なくなるかもしれない健全度2に該当する管渠は、加古川土木管内にはないが、加東土木管内では延長1.4kmあるため、現在、緊急点検を行っている。（北播磨県民局）

⇒下水には雨水幹線と下水道幹線があるが、現在、問題になっているのは、汚水処理を行う下水道幹線である。総合治水推進計画で記載のある下水道は、雨を集めて河川まで流す雨水幹線の記載であるため、埼玉県の事例とは別のものである。なお、加古川土木事務所管内には、雨水と汚水を一緒に収集・処理する合流式下水道が存在しているため、一部対象となる可能性がある。（北播磨県民局）

- 2 説明を聞いている中で「これからは自助・共助の時代だ」みたいに言っていたと思うが、それは厳しいと思う。特に多可町においては高齢化が進んでおり、住民が「自助」「共助」を行うことは難しいと考えている。住民の協力が必要であることは理解しており、協力したいが、住民は治水に関して素人であるため「加古川の治水なら加東土木に相談だ！」というスローガンを示して、住民に働きかけるのは、非常に有効的であると考えている。「みんなで協力して」や「地域の力」などの抽象的な言葉だけでは、具体的な話は進まないと思うので、住民がどこに相談に行けば良いかをスローガンとして明確に示していただきたいという思いで、このスローガン提案をさせていただいた。加東土木は、この「自助」「共助」ということについて、どのように考えているのか、聞かせていただきたい。（多可町県民委員）

⇒「自助」「共助」だけに頼るという訳ではなく、河川改修や維持管理も着実に進めている。

「自助」「共助」をお願いしている趣旨は、想定しているよりも大きな雨が降った場合に、自助として住民自身が避難することや共助として事前に自分で動けない人などの情報を地元で共有することで、消防等が迅速に対応できるといった観点から「自助」「共助」が必要であると考え、お願いしている。決して「公助」が無くても良いという訳ではなく、河川の改修事業や維持管理などは引き続き進めていきたいと考えている。（北播磨県民局）

⇒「共助」の仕組みを作ることも住民で行うのか。（多可町県民委員）

⇒そうではなく、例えば西脇市では、自身の避難計画を各自が作成する「マイ・タイムライン講習会」を実施した。このような取り組みを河川管理者や水防活動の管理団体である市町と

協力し、進めていきたいと考えている。加古川水系の場合、西脇市から上流は県が指定管理しており、加東市から下流の一級河川については、姫路河川国道事務所が直轄管理している。そのため、加東市では姫路河川国道事務所と加東市が共同で講習会を開催しており、西脇市では県と西脇市が共同で講習会を開催している。(北播磨県民局)

⇒私の方から補足すると、「総合治水」という考え方の背景には、行政による治水対策はもちろんであるが、近年の温暖化の影響による豪雨の頻発化がある中で、行政の治水対策だけでは命を守れる可能性が低くなっていることから、「自助」「共助」も強化し、全体で人の命を守るために取り組むというものである。そのため、「自助」「共助」だけで取り組むということは決してなく、安心・安全に関わっている人々は、災害弱者の方への配慮や支援の必要性について、重々承知している。そのため、できるだけ協力いただきたいと思います。(会長)

- 3 防災士の資格を取得することにより、防災意識が高まり、効果的な対応が可能となるため、1つの自治会に最低でも3人は、防災士が必要だと考えている。自治会内で資格取得を促進しているものの、若い方や会社勤めの方は、講座を受けることなどが難しい場合がある。そのため、公的なところで防災士の資格取得に関する支援をしていただければ、かなり防災意識が高まってくるため、お願いしたいと思う。また、近くにある川代ダムについて、豪雨時にはダムを開放して下流へ水を流すが、底や擁壁の前に溜まった土砂が全て巻き上げられた状態で流下してくるため、河川沿いの用水路に土砂が入り、堆積して埋まってしまい、上流域では、その土砂の撤去に非常に苦勞している。市にもお願いはするものの、何らかの対策方法があればと思っている。(丹波市県民委員)

⇒県民局では、防災士育成研修は実施していないが、県防災士会に地域防災力の強化を目的とする研修事業を委託し実施している。去年は、約100名の方々にご参加いただいた。また、来年度も引き続き、同様の研修を予定している。(北播磨県民局総務企画室総務防災課)

⇒防災士が出張し研修するなどあれば良いと思われる。(会長)

⇒防災士の方々は、頻繁に色々な研修を行い、実際の活動も行っている。そうではなく、防災意識を高めて防災士になるという意識を育ててほしいと思う。(丹波市県民委員)

- 4 スローガンについては、時間が押しており、今、この場で決める時間がない。すごくいい案が多数ある。それらをできるだけ取り入れさせて頂き、事務局より案を提示して、委員の皆様にご覧いただくことで決めていきたいと考えている。(会長)

⇒後日、事務局から、照会させて頂く。(北播磨県民局)

⇒先ほどの「加古川の治水なら加東土木に相談だ！」については、河川管理者が加東土木、だけではなく、丹波土木、加古川土木、国管理区間もあるため、表現は変えさせて頂きたいと考えている。(北播磨県民局)

2 (2) 各機関の主な取組みについて

- 5 老朽化したため池や農業用ではないため池であっても、治水の役割を果たせるような池であれば、廃止せずメンテナンスを行い、治水のために活かすという考え方か。（三木市県民委員）

⇒農業用のため池にそれ以外のため池があり、農業用でも老朽化しているものもあれば、それ以外のため池にも老朽化しているものがあると思う。農業用ため池の老朽化については、市や県の農林で順次改修している。県としては、全てのため池を治水に使用しているのではなく、地元の協力が得られたもので、特に問題がないため池について、水位を下げて空間を設けてもらい、利用させていただくという考え方である。また、場合にもよるが、総合治水に利用させていただいた神戸市北区のため池については、池の貯水位が急激に変化すると、池の護岸が崩れるので、河川改修の費用で護岸の強化を実施した。（北播磨県民局）

⇒老朽化しているため池であっても、水は溜まっているため、治水効果があると思われる。ため池が廃止されると下流への災害の危険性が想定される場合は、維持していただけるかどうかということをお聞きしたい。（三木市県民委員）

⇒治水活用の申入れをして、ため池の管理者が管理できるということであれば、治水活用させていただくが、管理できないということであれば、河川管理者が取り組むということはない。資料2の県の説明でもあったが、名塩川の上流に西宮の水道ダムがあり、そこは西宮市の水道計画が変更になり使われなくなったため、水位を下げ、洪水調節に利用している。工事は県で行っているものの、管理者は西宮市という位置付けである。（北播磨県民局）

⇒承知した。できれば将来的なことであるが、その点考えていただき維持管理も行ってもらえたらと考えている。（三木市県民委員）

- 6 ため池のせき板を2カ月ほど外して水位を下げる目的が分かりにくく、せき板を外せば水かさが減り、蓋しないと水が溜まらないのではないか。治水の目的は溜めるということではなかったか。（三木市県民委員）

⇒普段は、柵板を外して水位を下げ、降雨時に狭い放流口のある柵板を設置しておくことで、下流側に少しずつ放流することができ、放流する水量のピークを下げるために利用している。（北播磨県民局）

⇒承知した。池が多くある中で、農業に利用している池や単なるため池など様々な池があるが、その中には必要ない池もあると思う。そのような池は、早々に水を減らして、保水すれば下流へ流下する水が少なくなるのではないか。また、そのような対策をしたときにもっと助成金いただくということになれば良いのかなと思っていた。（三木市県民委員）

- 7 パンフレット裏面の各機関取組内容一覧は、令和6年から令和15年までの重点的な取組として、国や県、各市町に丸印が記載されていると思うが、10年先を見越すならもっと丸印がついてもいいのではないかなと思う。また、西脇市の取り組みとして、マイ・タイムラインの講習会を実施したとの説明があり、「そなえる」対策として、住民目線に立った防災意識の浸透という意味では非常に重要であり今後さらに広げていく必要がある取り組みであると思ったが、パンフレット裏面の各機関取組内容一覧の西脇市の欄を見るとマイ・タイムラインの項目に丸印が入っていないため、確認していただきたい。（西脇市県民委員）

⇒修正する。各機関取組内容一覧表については、各機関に持ち帰っていただき、今後の10年間で取り組んでいただく取り組みの動機付けになればと思い作成した。（北播磨県民局）

- 8 流域に住んでいる者としては、確かに雨が増えたという実感はある。加古川の鬨竜灘の上流では、昨年の令和6年で2回ほど地元の田畑が浸水しており、100年や10年の問題ではなく、毎年のように浸水している田畑があるということも認識していただきたい。（加東市県民委員）

⇒これまで非常に稀だったものが頻発化しており、その中には毎年のように浸水している場所もあるため、当該箇所の改修も含め河川整備を進めていく必要があると感じている。浸水がどのような場所で発生しているか、どのような対策ができるかを各自治体と情報交換をしながら考えていきたいと思う。多井田地区での浸水は、昨年は11月と5月末の2回あったということは承知しているため、自治体と連携し、河川管理者として取り組みを検討していきたい。（姫路河川国道事務所）

【まとめ】

今後10年の総合治水推進計画の改定概要の説明、各機関の取組について議論した。現状では、地球温暖化に伴い豪雨発生の可能性が非常に高い。加古川流域は、比較的平坦な地形を流れている大河川のため、河道で流せる洪水流量には限界がある。今回の協議会は、そのような河川流域の特性を考えると、洪水調節など「ためる」や「そなえる」が重要になってくるということを再認識する機会でもあったと思う。今日のスローガン案の一つにもあったように、今後の10年も引き続き、小さなことからコツコツと総合治水を推進することが重要と考える。（会長）

第2回 東播磨・北播磨・丹波（加古川流域圏）地域総合治水推進協議会出席者名簿

日時：令和7年2月3日（月）14:00～16:00 場所：加東市役所2階201会議室

【協議会委員】

属性	氏名	所属等	出欠席	代理人氏名	代理人所属等
◎学識経験者	ミヤモト ヒトシ 宮本 仁志	芝浦工業大学教授	出席		
国	イケダ ダイスケ 池田 大介	姫路河川国道事務所長	出席		
	ヨシノ マサシ 吉野 昌史	神戸地方気象台長	代理出席	タケタ ススム 竹田 進	神戸地方気象台防災管理官
県	ナイノウ リョウスケ 内藤 良介	神戸県民センター長	代理出席	カワズミ ケンスケ 河澄 健輔	神戸県民センター神戸土木事務所 所長補佐（企画調整担当） 【WEB出席】
	ミヤグチ ヨシノリ 宮口 美範	阪神北県民局長	代理出席	タカタ タカフミ 高田 隆史	阪神北県民局宝塚土木事務所 所長補佐（企画調整担当）
	ノギタ コウソウ 野北 浩三	東播磨県民局長	代理出席	クロサカ キミアキ 黒坂 公晶	東播磨県民局加古川土木事務所長
	ナリタ テツイチ 成田 徹一	北播磨県民局長	代理出席	ヤオ マサヒコ 八尾 昌彦	北播磨県民局加東土木事務所長
	カスター ヒロユキ 樽谷 浩行	丹波県民局長	代理出席	カモガワ ヨシノリ 鴨川 義宣	丹波県民局丹波土木事務所長
流域圏市町	ヒサモト 久元 喜造	神戸市長	代理出席	ウキモト ヒデノブ 藤本 英伸	神戸市建設局河川課長 【WEB出席】
	オカダ ヤスヒロ 岡田 康裕	加古川市長	代理出席	ナカツカサ ヒロフミ 中務 裕文	加古川市建設部長
	カタヤマ ショウソウ 片山 象三	西脇市長	代理出席	オグラ マサヒロ 小倉 正大	西脇市技監
	ナカタ 伸田 カズヒコ 一彦	三木市長	代理出席	ヤマモト タカユキ 山本 隆之	三木市総合政策部危機管理課長 【WEB出席】
	トクラ タツヨシ 都倉 達雄	高砂市長	代理出席	カサヤ レオ 糟谷 怜央	高砂市上下水道部技術管理室 治水対策課技術吏員 【WEB出席】
	ホウライ ツトム 蓬萊 務	小野市長	代理出席	ハマダ シロウ 濱田 士郎	小野市技監
	タムラ カツヤ 田村 克也	三田市長	欠席		
	タカハシ ハルヒコ 高橋 晴彦	加西市市長	代理出席	スズキ トヨヒサ 鈴木 豊寿	加西市建設部次長兼施設管理課長
	サカイ タカアキ 酒井 隆明	丹波篠山市市長	代理出席	オカモト トモヒロ 岡本 知倫	丹波篠山市まちづくり部地域整備課主 査
	ハヤシ トキコ 林 時彦	丹波市長	代理出席	カガヤマ アツシ 加賀山 敦	丹波市建設部河川整備課長 【WEB出席】
	イワネ タダシ 岩根 正	加東市長	代理出席	オオハラ シゲユキ 大原 成幸	加東市技監
	ヨシダ カズシ 吉田 一四	多可町長	代理出席	ツダ カズアキ 津田 和明	多可町建設課副課長兼余暇村公園長
	ナカヤマ テツロウ 中山 哲郎	稲美町長	代理出席	ミヤザキ ヒデキ 宮崎 英樹	稲美町地域整備部土木課長 【WEB出席】
	サエキ ケンサク 佐伯 謙作	播磨町長	代理出席	コバヤシ ツトム 小林 勉	播磨町都市基盤部土木課長 【WEB出席】
県民	キシモト ヒトフミ 岸本 仁文	神戸市山田校下自治振興会会長	出席		
	オカモト タツミ 岡本 立身	加古川市町内会連合会会長	出席		
	オオキド ムネタカ 大城戸 宗孝	西脇市連合区長会副会長	出席		
	イナバ ヒロシ 稲葉 洋	三木市区長協議会連合会理事	出席		
	イシドウ モトム 石堂 求	高砂市連合自治会会計	欠席		
	フジノ マサト 藤野 正人	来住地区代表区長	欠席		
	フクイ エツジ 福井 悦治	大川瀬区総合治水担当（元区長）	欠席		
	フカタ テツヤ 深田 哲也	加西市消防団長	欠席		
	ヤマダ トシロウ 山田 俊朗	丹波篠山市自治会長会会長	出席		
	ノガキ カツミ 野垣 克己	丹波市自治会長会理事	出席		
	ニシヤマ シュウソウ 西山 修三	加東市多井田地区区長	出席		
	キハラ ノブオ 木原 伸夫	多可町区長協議会会長	出席		
	モトオカ ヒデキ 本岡 秀己	稲美町土地改良事業連絡協議会会長	出席		
	ナカジマ ナオミ 中島 直實	播磨町自治会連合会会長	出席		

◎：協議会会長

議事録署名人

会長：芝浦工業大学教授

宮本 仁志

北播磨県民局加東土木事務所長：

八尾 昌彦